

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-4370

(43) 公開日 平成7年(1995)1月24日

(51) Int.Cl.⁸

B 6 5 D 67/02

識別記号

庁内整理番号

B 7191-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願平5-39943

(22) 出願日 平成5年(1993)6月25日

(71) 出願人 000129493

株式会社クラウン・パッケージ

愛知県小牧市大字小針字政所77番地

(72) 考案者 佐光 守蔵

愛知県小牧市大字小針字政所77番地 株式

会社クラウン・パッケージ内

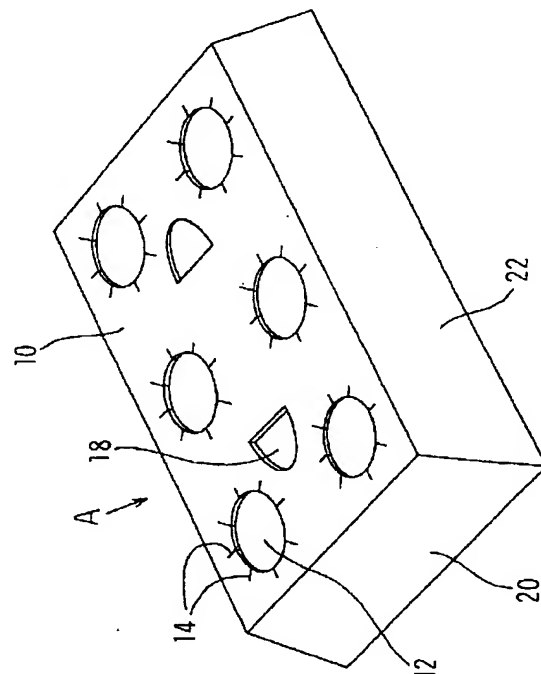
(74) 代理人 弁理士 長屋 文雄

(54) 【考案の名称】 瓶運搬具

(57) 【要約】

【目的】 一又は複数の瓶を保持し運搬するための瓶運搬具であって、材料の使用量を極力押さえることができ、さらに、環境にも適した瓶の運搬具を提供することを目的とする

【構成】 平面部10に左側面部20、前側面部22等の側面部を延設するのみの構成とし、上記平面部10には開口部12が6つ設けられる。該開口部12の外周には切込み14が設けられ、瓶のキャップ部を開口部12に挿通した際に、開口部12の外周部が立設して瓶のキャップ部に係止する。運搬は挿通口18に指を挿通して行う。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 一又は複数の瓶を保持し運搬するための瓶運搬具であって、外周に複数の切込みを有する複数の瓶保持用開口部を備えた瓶保持面部と、該瓶保持面部から下方にテーパ状に延設された側面部とを有し、上記瓶運搬具全体が段ボール材で形成されていることを特徴とする瓶運搬具。

【請求項 2】 瓶保持面部に指を入れて持ち運ぶための挿通口が設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の瓶運搬具。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本考案に係る実施例における瓶運搬具の斜視図である。

【図 2】 本考案に係る実施例における瓶運搬具の展開図である。

【図 3】 本考案に係る実施例における瓶運搬具の使用状態を示す斜視図である。

【図 4】 本考案に係る他の実施例における瓶運搬具の斜視図である。

【符号の説明】

A, A' 瓶運搬具

10 平面部

12 開口部

14 切込み

16 立設片

18 挿通口

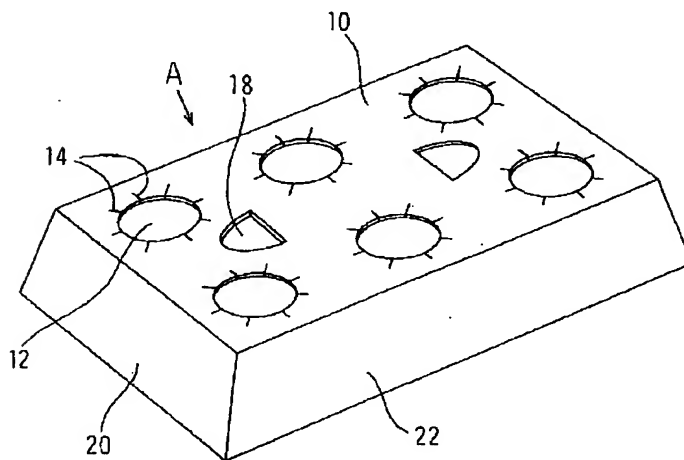
20 左側面部

22 前側面部

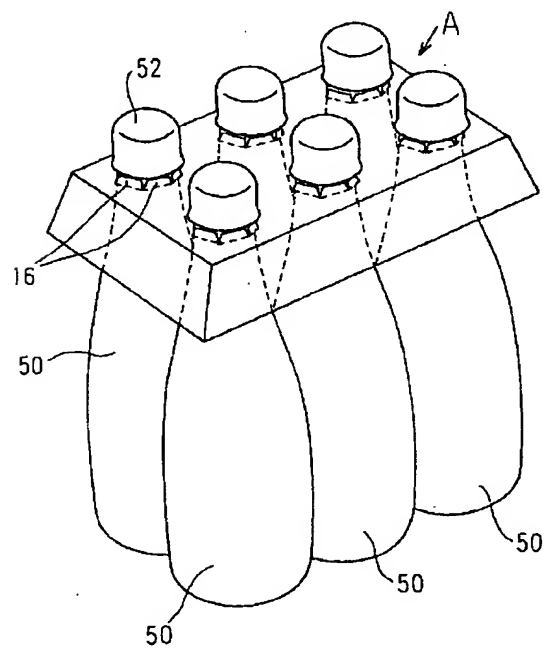
24 右側面部

26 後側面部

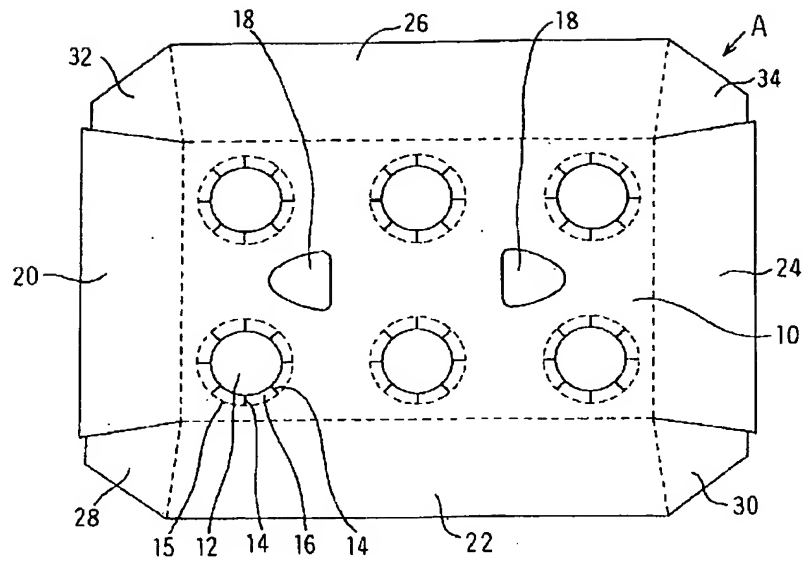
【図 1】



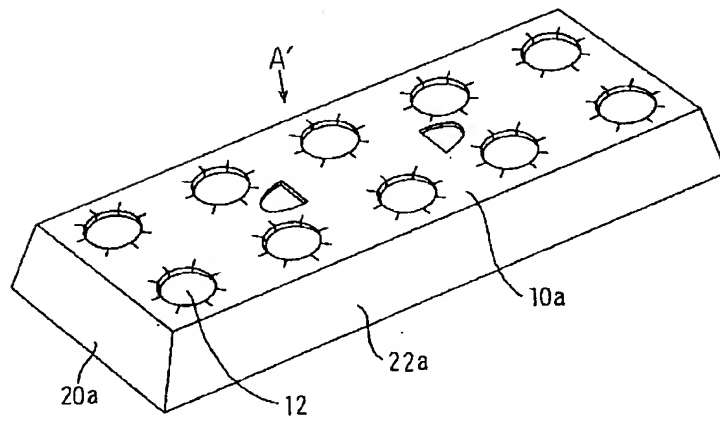
【図 3】



【図 2】



【図 4】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、瓶、特に清涼飲料水の入った瓶を運搬するための運搬具に関するものである。

【0002】**【従来技術】**

従来、瓶を運搬する運搬具に関するものとしては、プラスチックのケースや塩化ビニールで形成された袋状のもの等が知られている。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

しかし、プラスチックのケースやビニールでできた袋は、その形状が瓶を収納するように形成されているため、材料の使用量が多く、コストが高くなるという欠点があった。また、ごみとして燃やすことができず、また、リサイクルの問題もあり、資源の節約及び環境美化等の観点から適当であるとはいえない。

そこで、本考案は、上述した従来欠点を除去するためになされたものであって、材料の使用量を極力押さえることができ、さらに、環境にも適した瓶の運搬具を提供することを目的とするものである。

【0004】**【課題を解決するための手段】**

上記目的を達成するため、本考案は、第1には、一又は複数の瓶を保持し運搬するための瓶運搬具であって、外周に複数の切込みを有する複数の瓶保持用開口部を備えた瓶保持面部と、該瓶保持面部から下方にテーパ状に延設された側面部とを有し、上記瓶運搬具全体が段ボール材で形成されていることを特徴とするものであり、第2には、上記第1の構成において、瓶保持面部に指を入れて持ち運ぶための挿通口が設けられていることを特徴とするものである。

【0005】**【作用】**

本考案においては、瓶保持面部が外周に切込みを有する複数の瓶保持用開口部

を有し、該瓶保持面部から下方にテーパ状に延設された側面部を有しているので、複数の瓶を上記瓶保持用開口部の位置に合うように整列させておき、本考案に基づく瓶運搬具を上方から被せるようにして瓶のキャップ部を瓶保持用開口部に挿通させる。ここで、上記瓶保持用開口部の外周には複数の切込みが設けられているので、上記瓶保持用開口部の径を瓶のキャップ部の径よりもやや小さめに形成しておけば、瓶のキャップ部を挿通すると上記瓶保持用開口部の外周部が上方へ立設される。瓶のキャップ部は一般に側方に突出した形状であるので、運搬時には上方に立設された上記瓶保持用開口部の外周部が該キャップ部の下端に係止し、瓶を保持することになる。

【0006】

本考案に基づく瓶運搬具では、瓶保持面部と側面部のみから形成されるので、コストを低減させることができ、段ボールで形成されているので強度が良好で燃やしたりリサイクルにも適している。

瓶保持面部に指を入れて持ち運ぶための挿通口が設けられている場合には、この挿通口に指を入れて持ち上げて運搬するが、単に挿通口を設けるのみで運搬用の手段を形成できるので、極めて経済的である。

さらに、各々の瓶をキャップ部の下端にて確実に保持するので、例えば、カートン等に収納した際に、キャップ部同士が接触することがなく、また、瓶同士が激しく接触することがないので、瓶の破損等のおそれがない。

【0007】

【実施例】

以下、引き続き本考案の要旨をさらに明確にするため、図面を利用して本考案の一実施例を説明する。

本実施例に係る瓶運搬具Aは、本実施例に基づく瓶運搬具の斜視図を示した図1に示すように、略平面状で長形状の瓶保持面部としての平面部10と、該平面部10の4辺から下方に延設された左側面部20、前側面部22等を有し、平面部10には6つの開口部12が設けられている。

【0008】

本実施例に基づく瓶運搬具Aの構成をより詳しく説明するために展開図を示す

図 2 を使用して説明すると、平面部 10 には上に 3 つ下に 3 つの計 6 つの開口部 12 が設けられており、各開口部 12 の外周には対称に 8 つの切込み 14 が放射状に設けられ、各切込み 14 と点線 15 で示される折れ線で囲まれる部分が立設片 16 を構成する。上記各開口部 12 の開口位置は、例えば運搬する瓶がケースに収納されている状態での各瓶のキャップ部の位置に開口しておく。また、開口部 12 の径は収納する瓶のキャップ部よりもやや小さめに形成され、切込み 14 の切込み深さは、折れ線 15 のなす径が瓶のキャップ部よりもやや大きめになるように形成されている。

【0009】

また、該平面部 10 の中央やや右より及び中央やや左よりには略三角形の挿通口 18 が設けられ、運搬時に指を挿入して持ち上げるように形成されている。平面部 10 の左側と右側にはそれぞれ左側面部 20 と右側面部 24 が延設され、上側と下側にはそれぞれ後側面部 26 と前側面部 22 とが延設されている。また、前側側面部 22 の左右には左側面部 20 と右側面部 24 と接着固定するための糊代部 28、30 が延設され、さらに、後側側面部 26 の左右には左側面部 20 と右側面部 24 と接着固定するための糊代部 32、34 が延設されている。上記左側面部 20、右側面部 24、前側面部 22 及び後側面部 26 は組立て時にテープ状を呈するように台形状に形成されている。

上記構成に基づく瓶運搬具 A は段ボールで形成され、トムソンで型抜き成型して形成される。

【0010】

上記瓶運搬具 A の使用状態を説明すると、複数の瓶を各開口部 12 の位置に合うように整列させておき、瓶運搬具 A を上方から被せるようにして瓶のキャップ部を開口部 12 に挿通させる。ここで、各開口部 12 が瓶がケースに収納されている状態での各瓶のキャップ部の位置に設けられている場合には、ケースに収納されている瓶に対してそのまま上方から被せるようにして瓶のキャップ部を開口部 12 に挿通させる。すると、開口部 12 の径が瓶のキャップ部の径よりもやや小さめに形成されているので、瓶のキャップ部を開口部 12 に挿通すると、図 3 に示すように、上記開口部 12 の外周の立設片 16 が上方へ立設され、瓶のキャ

ップ部は一般に側方に突出した形状であるので、上方に立設された立設片 16 がキャップ部 52 の下端に係止し、持ち上げた際に瓶を保持することができる。運搬は、挿通口 18 に指を挿通して行う。

【0011】

本実施例における瓶運搬具 A においては、平面部 10 と左側面部 20、右側面部 24、前側面部 22 及び後側面部 26 の各側面部とのみからなるので、非常に少ない材料で済み、また特に、段ボールを使用するので、例えば板紙を使用する場合よりもコストを下げることができる。また、各側面部がテーパ状に形成されるので、図 3 に示すように瓶の膨らみが邪魔になることがない。

【0012】

次に第 2 実施例として示す瓶運搬具 A' では、図 4 に示すように平面部 10a に左側面部 20a、前側面部 22a 等が延設されているのは第 1 実施例と同様であるが、平面部 10a に計 10 個の開口部が形成され、同時に 10 本の瓶を運搬できるのが特徴である。他の構成及び使用状態は第 1 実施例と同様であるので、省略する。

なお、本考案に係わる瓶運搬具における各構成要素の形状、大きさ、材質等は、前記した目的、作用および後記する考案の効果が達成される範囲内においてそれぞれ任意に定められてよく、これらの変更はいずれも本考案の要旨を何ら変更するものでないことは申すまでもない。

【0013】

【考案の効果】

以上詳細に説明したように、本考案による瓶運搬具によれば、瓶保持面部と側面部のみから形成されるので、材料の使用量を抑え、コストを低減させることができ、また、段ボールで形成されているので強度が良好で燃やしたりリサイクルにも適している。

また、瓶保持面部に指を入れて持ち運ぶための挿通口が設けられている場合には、把手等を設けることなく容易に運搬できるので、コストを低減することができる。

さらに、各々の瓶をキャップ部の下端において、瓶保持用開口部の外周部によ

り確実に保持するので、例えば、カートン等に収納した際に、キャップ部同士が接触することがなく、また、瓶同士が激しく接触することがないので、瓶の破損等のおそれがない。